

シュプリンガーネイチャーにおける

研究公正の 取り組み

2025/2026

シュプリンガーネイチャーは、私たちが出版する研究の信頼性がいかに重要かを理解しています。研究は私たちの日常生活において極めて重要な役割を果たしており、人工知能の活用、世界の健康の向上、そして人類が直面する最も困難な課題の解決に向けた理解を深めることに貢献しています。

私たちは、研究プロセスのあらゆる段階において研究の公正性を推進するよう取り組んでいます。研究コミュニティの活動における厳密さとベストプラクティスを保証する支援から、出版記録の保護、問題のあるコンテンツを取り除くためのツールを編集者に提供することまで、多岐にわたります。現在では、論文投稿数、出版数、および撤回数に関する年次出版データを公開し、出版記録の信頼性を確保するために継続的に取り組んでいます。

この取り組みの中核には専門のチームがありますが、この姿勢は組織全体に深く根付いており、シュプリンガーネイチャーにおける私たちの行動様式を形づくる共通の理念となっています。

研究のベストプラクティスを支援

研究者が研究の最初の段階からベストプラクティスを実践することで、最も信頼性が高く、堅牢な研究が生まれます。

私たちはこれを支援するため、研究者の公正関連のニーズを把握する国際的な調査を実施しました。調査は、研究成果を多く出版している7か国において、7,800人以上の研究者を対象に行われました。白書の概要では、研究者の研究公正に対する理解や研修のニーズに関する洞察を提供しており、すべてのデータはさらなる分析のために無償で公開されています。

また、研究者が研究におけるベストプラクティスを実践できるよう、無料のオンライントレーニングなどの教育資料を作成しており、これらは定期的に更新していきます。

当社は、研究のより良いプラクティスを推進するために編集方針を継続的に見直して更新しており、研究者がデータを共有し、研究の透明性と再現性を高め、責任ある著者資格を実践するよう奨励しています。また、AIなど、研究環境を急速に変えつつある発展も考慮しています。



出版記録を保護

現在、研究公正に関する多くの話題の中心は、剽窃、ペーパーミル（「論文工場」）、著者資格に関する論争などの研究不正の問題です。

私たちは、関連する学術的な専門知識を有するチームを立ち上げ、急速に拡大してきました。このチームは、研究公正に関する研究者や調査の専門家と協力しながら、ガイダンスを提供し、公正性に関する懸念の予防と解決に取り組んでいます。また、公正性を確保するための手順が継続的に改善されているかを確認する役割も担っています。

さらに、出版記録を改ざんする試みを回避するための技術的な解決法を開発する専門チームも設置し、当社のスタッフを支援する、非倫理的な行為を示す投稿原稿を選別する社内の人工知能（AI）ツールを開発し、継続的に改良するなどしています。

論文工場の識別に関する講座や最新情報を提供するウェビナーなど、研究公正の問題に関する様々なトレーニングを提供することで、18万人以上の学術編集者ネットワークを支援しています。

シュプリンガーネイチャーの研究公正グループ (SN Research Integrity Group [RIG]) について

SN RIGは、研究の公正性に関する問題の予防と解決、手順の継続的な改善、そしてグループ全体にわたる研究公正および出版倫理の支援と推進を行う、業界をリードする専門チームです。

重点分野

トレーニング

編集者向けにベストプラクティスおよび関連する公正問題に関する定期的に更新されるトレーニングとリソースを提供するとともに、研究者のキャリア全段階に対応した補完的トレーニングを開発。

ポリシー

進化するコミュニティー基準とベストプラクティスを反映するためのポリシーの継続的な監視・改善・導入。

監査

業界基準と内部基準への準拠を確保するため、手順と技術導入に対象を絞った評価を実施。

予防

論文や個人のネットワークを詳細に分析し、得られた知見を活用して新たな公正技術ツールや内部プロセスの開発を支援。

テクノロジー

AIを含む技術を活用し、公正ツールおよび社内システムの開発・強化。

調査と助言

出版前後の懸念事項に関する助言を提供し、COPE準拠の調査を実施することで編集者を支援。



協力とリーダーシップ

当社は、多数の業界団体に参画することで、出版界においてより良いプラクティスを推進および支援することに取り組んでいます。当社が参画している団体：



なお、当社は、研究公正を保護するための出版社主導の取り組みである [STM Integrity Hub](#) の構築において重要な役割を果たし、STM Integrity Hubを統括するガバナンスボードの議長を務めるなど、現在、複数のワーキンググループに社員が参加しています。



最近の活動

私たちは、ペーパーミルの痕跡を特定するために、社内で一連のAIツールを開発してきました。

2025年7月、私たちはジャーナルや書籍全体にわたる非標準的な表現を検出する第4の研究公正ツールを導入しました。この技術ツールは、画像整合性分析のためのSnappShot、不適切な参考文献検出ツール、問題のあるテキストの検出ツールなど、既存の社内AIソリューションを補完するものです。

2025年の初めには、透明性と説明責任への継続的な取り組みの一環として、2024年の投稿数・出版数・撤回数のデータを公開しました。投稿数は230万件を超え、そのうち約21%

(48万2,000件)を受理・出版しました。撤回件数は3,000件弱であり、研究公正に関する懸念に対して積極的に対応している姿勢を示しています。

2025年4月には、AIを活用したナンセンス文章検出ツールをSTM Integrity Hubに寄付しました。これは、あらゆる規模の出版社が問題のあるコンテンツを特定し、新たな脅威に対応するための共通技術を活用できるよう支援する継続的な取り組みの一環です。

